

統計ハンズオンセミナー セッション詳細

会 員 (5,000 円) : 4/2 (月) 10:00~9/7 (金) 17:00 **先行予約受付!**

非会員 (10,000 円) : 4/16 (月) 10:00~9/7 (金) 17:00

◆ 統計ハンズオンセミナー1 9/29(土)10:00-11:30・定員 30 名

一人のできるプロペンシティスコアマッチング

企画責任者: 田中 司朗 京都大学大学院 医学研究科 臨床統計学/臨床統計家育成コース

対象者: 初中級者

* 交絡調整の考え方や、プロペンシティスコアに関する基本的知識を有する方

* R もしくは SAS のごく基本的なプログラムが書ける方

ワークショップの学習達成目標: プロペンシティスコアを用いたマッチングを、統計ソフト R あるいは SAS を用いて自在に行えるようになること。

ワークショップの概要: 臨床疫学や臨床統計学の研究では、交絡調整を行った上で暴露あるいは介入効果の評価を行うことが必須となりつつあります。このような交絡調整のための手段として、プロペンシティスコアマッチングを用いた方法が近年注目されています。本セミナーでは、基本的な記述統計が理解でき、統計ソフトを用いてそれらを計算できる初中級者を対象とし、プロペンシティスコアによるマッチングの方法をハンズオン形式で習得して頂きます。当日は、実際の臨床研究論文で用いられたデータを題材に、交絡調整の必要性を改めて再認識して頂き、プロペンシティスコアの算出、スコアによるマッチング、マッチングされた集団での比較・考察を行って頂きます。

持参物、事前準備: 無線 LAN が使用できる PC を各自で持参して頂きます。実習では実習日時点で最新 version の R および SAS でのチュートリアルを進行予定です。ご使用予定の統計ソフトを各自で事前にダウンロード・インストールして頂くようお願い致します。後日セミナーに必要なアプリケーションのダウンロード・インストールのお知らせをいたします。また、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けますと幸いです。

◆ 統計ハンズオンセミナー2 9/29(土)16:30-18:00・定員 30 名

観察研究における準実験デザイン(操作変数法・回帰不連続デザイン)

企画責任者: 田栗 正隆 横浜市立大学 データサイエンス学部

対象者: 中級者向け

ワークショップの学習達成目標: 操作変数法と回帰不連続デザインの概念を理解し、統計ソフトウェア R もしくは SAS を用いて解析を実施できるようになる。

ワークショップの概要: 曝露あるいは治療効果を推定する目的で実施される観察研究においては、データ解析時の交絡調整が1つの重要な問題となります。伝統的な交絡調整の方法としては、層別解析、マッチング、回帰モデルが挙げられます。また、傾向スコアを用いた方法も頻用されるようになってきています。しかしながら、これらの方法では「未測定の影響因子が存在しない」という仮定が前提となっており、特にデータベース研究等のレトロスペクティブに実施される観察研究では、成立が難しい可能性があります。これに対して、操作変数法や回帰不連続デザインなどの準実験デザインと呼ばれることのある解析手法では、汎用性は限られているものの、「未測定の影響因子が存在しない」という仮定を必ずしも必要としないという利点があります。本ワークショップでは、基本集計や回帰モデルなどの標準的な交絡調整を行うことができる中級者を対象に、操作変数法と回帰不連続デザインの解説を行います。また、実際の観察研究を模したデータセットを利用して統計ソフト R によるデータ解析の実習を行います。本セミナーを受

講することで、操作変数法や回帰不連続デザインの概念とこれらの方法を使用可能な状況、必要な仮定、実施上の注意点を理解し、実際に統計ソフトを用いて実行し結果の解釈を行えるようになることを目標とします。

持参物、事前準備：無線 LAN が使用できる PC を各自で持参して頂きます。予め無料の統計ソフト R または SAS をインストールした PC をご持参下さい。後日セミナーに必要なアプリケーションのダウンロード・インストールのお知らせをいたします。また、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けると幸いです。